

科目名		授業形態	担当教員名	
運動療法学Ⅱ		演習・講義	小堀 博史	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
高齢化、高度医療の発展や施策の展開が図られる保健・医療・福祉領域において、理学療法士に求められる役割や知識について理解することを目的とし、予防理学療法、産業理学療法について授業を通して、基本となる考え方や評価とアプローチの知見を学習する。				
授業の到達目標				
予防理学療法、産業理学療法において、理学療法の活動分野・役割が理解ができる。環境やライフステージに伴う身体的変化の特性を学び、理学療法の介入における予防的観点、評価やアプローチについて理解ができる。				
授業計画				
回	内容			
1	高齢期における予防理学療法① 考え方			
2	高齢期における予防理学療法② 転倒・骨折予防			
3	高齢期における予防理学療法③ 運動器障害の予防（ロコモティブシンドローム）			
4	高齢期における予防理学療法④ 運動器障害の予防（サルコペニア、フレイル）			
5	高齢期における予防理学療法⑤ 認知症予防			
6	高齢期における予防理学療法⑥ 廃用症候群の予防			
7	高齢期における予防理学療法⑦ 咀嚼、嚥下障害の予防			
8	高齢期における予防理学療法⑧ 排尿障害の予防			
9	壮年期における予防理学療法			
10	学童期における予防理学療法			
11	産業理学療法① 役割について			
12	産業理学療法② 筋骨格系、メンタルヘルス問題の予防			
13	災害時の理学療法			
14	予防理学療法の実際① 集団指導（実技）			
15	予防理学療法の実際② 集団指導（実技）			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	10%	内容・形式については講義中に指示する。		
小テスト	80%	小テストは各単元の授業中で実施する。		
平常点	10%	講義への参加態度で評価を行う。		
その他				
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
予防と産業の理学療法		樋口由美 他編	南江堂	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
高齢者理学療法学		島田裕之 総編	医歯薬出版株式会社	
15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 予防理学療法学		石川朗 総編	中山書店	
自由記載				
備考				
授業開始時に前回授業の小テストを実施するため、集中して受講、復習をすること。				